

<議案名> 2019年度 環境(自然)教育研修会について		担当副会長 武田 洋子 環境教育特別委員会委員長 松尾 琢二
---------------------------------	--	-----------------------------------

2019年度環境教育研修会を以下のように実施いたします。

1 「環境教育研修会A(幼児教育における自然体験教育とその活用における実践篇) 計3回実施」

幼児期の環境教育の理論および自然体験教育の実技研修を今年度は自然体験とその実践に焦点を絞り、座学と実際の保育現場での学びを通して保育技術の向上を目指します。

日程	会場	内容
6月22日(土) 9:30~12:00	ウィルあいち (名古屋市)	「幼児期における自然体験についての研究協議会」 ① 講師 Bio Garden With 主催 宮田 賢輔氏 ② 幼児期における自然体験の重要性を、講師の活動や幼稚園の環境構成などを踏まえて学び合う。
9月7日(土) 9:30~12:00	青松こども園 (豊田市)	「私立こども園の園庭を用いた研究協議会」 ① 幼稚園の施設や環境を見学したり、実際に試したりする。 ② ワークショップをとおして、幼児期における環境(自然体験)教育の具体的な展開を学び合う。
11月9日(土) 9:30~12:00	ウィルあいち (名古屋市)	「センス・オブ・ワンダーから学ぶ環境教育の本質」 ① 上遠恵子 エッセイスト。レイチェルカーソン日本協会理事長 ② 「センス・オブ・ワンダー」の翻訳者である上遠先生の講演を通して、現代に通じる環境問題の本質について理解を深めるとともに、子どもと自然をつなげる保育者の役割や姿勢について学び合う。

2 「環境教育研修会B(多様な視点からヒトと自然・社会の関係性を考える教養篇)」

現代の持続可能な豊かさの価値観を超えて、幼児の生きる未来を見通した、持続可能な豊かさの価値観を探究する多様な思考力の向上を目指します。今年度は食に関する問題に焦点を絞り、人の営みや環境について学びを深める一方、国際的な観点から見た日本の子どもや子育て環境教育のあり方を深く考える研修会を3回実施します。

日程	会場	内容
6月7日(金) 14:30~17:00	ウィルあいち 会議室6 (名古屋市)	「食品ロスの問題を通して 日本人の食に関する課題を考察する」 ① 講師 日本フードバンク連盟 事務局長 マクジルトン チャールズ氏 ② 日本における様々な食に関する問題のうち、近年大きく報道されることの多い食品ロスに関する課題を取り上げる。現代日本の食に関する根本的な問題にも目を向け、その原因について理解を深める。
9月14日(金) 14:30~17:00	ウィルあいち 視聴覚ルーム (名古屋市)	「食品の安全に関するディスカッション」 ① 講師 Cラボ 運営委員 大沼淳一 名古屋生活クラブ 代表 井澤眞一 ② 現代日本に山積する様々な環境問題の中、廃プラや放射能、食品添加物などを取りあげディスカッションを通して、食品にとどまらず、環境的な視点を含め課題を取り上げ、理解を深める。
10月18日(金) 14:30~17:00	ウィルあいち 会議室6 (名古屋市)	「家族で世界を旅行した経験談を通して子育てについて理解を深める」 ① 作家 旅人 講師 松井 友和氏 ③ 「子どもに世界を見せてあげたい」との思いで、幼い子どもを含む家族4名で世界各国を旅行。その旅行を通して感じた子どもにとって大切な経験や環境について話を聞く中に、日本の子育てや子育て環境について理解を深める。

(公社)愛知県私立幼稚園連盟

会長 松岡 明 範

担当副会長 武田 洋子

環境教育特別委員長 松尾 琢二

2019年度 環境教育研修会 ご案内

環境教育特別委員会について

環境教育特別委員会は、未来に生きる子どもたちのために、人間と自然・社会の関係性のあり方に視座を定めて、幼児教育における環境教育のあり方を研究・研修していくという委員会です。

環境問題とは

ヒトは人類誕生から現在に至るまでの様々な環境の変化を生き抜き、その体の中に種を存続させて進化してきました。ヒトもまた自然そのものです。ヒトだけではなく世界中の全ての動植物はその内面にその種だけが持つ自然を保っています。生態系はその自然の連なりと言え、平衡を保つことで地球環境が保たれてきました。しかしヒトの営みは、特に現代において自然である自身の立場を超えて、自然をコントロールし、様々な文明、技術、道具を作る過程において、ヒトを中心とした環境を作り上げようとしてきました。結果、平衡が崩れ様々な環境問題を引き起こしています。つまりヒトそのものが環境問題であると言えます。

幼児期の環境教育とは

倉橋惣三は著書“幼稚園雑草”において「自然を愛し、自然に興味を持つということは子どもの教育者として、最も大切な資格の一つである」と述べています。幼児教育を行う為に必要とされる自然への理解が、日本の幼稚園創始期から重要視されているにもかかわらず、安全や管理を重要視するあまりに、自然は危険であると自然を子どもと対峙する別のものとして捉え遠ざける傾向があります。ヒトとして積み重ねてきた内面の自然をも自ら破壊してしまうかのごとく、子どもたちの成長の過程でも様々な歪みが発生しています。環境教育は子どもたちが本来持つヒトとしての感性を呼び起こすために必要であり、健康を保ち、ヒトとして当たり前を獲得する心身の育ちを補完する重要な場と考えます。又、自然に対する心地よさや興味関心を抱くことを通して、自らも自然と一体であると理解する大人へと成長する第一歩と考えます。

環境教育特別委員会研修会のめざすもの

そこで環境教育特別委員会では、上記の認識に基づき、今年度も、「環境教育研修会A(幼児教育における自然体験教育とその環境の構成実践篇3回)」と、「環境教育研修会B(多様な視点からヒトと自然・社会の関係性を考える教養篇3回)」という2種類の研修会を開催いたします。

「環境教育研修会A(幼児教育における自然体験教育とその環境の構成実践篇)」においては、幼児教育における環境(自然体験)の基本を多様で実践的な研修により、保育技術の向上を目指します。また「環境教育研修会B(多様な視点からヒトと自然・社会の関係性を考える教養篇)」においては、現代の持続不可能な豊かさの価値観を超えて、幼児の生きる未来を見通した、持続可能な豊かさの価値観を探究する多様な思考力と感性の向上を目指します。また今年度は委員会の研究活動として、2014年度に行った東日本大地震被災地へのスタディーツアー、連盟で行った給食放射能調査を踏まえた検証を次年度の研究活動として展開するため、そのための事前準備の年にしたい検討を重ねていきます。

ABの研修を通して子どもたちを取り巻く様々な環境の利点や課題について理解を深め、預かった未来の環境への責任を一人ひとりが自らのこととして理解する場になればと考えています。ぜひ積極的にご参加いただけますようご案内いたします。